

野外運動研究室ニュースレター

編集：筑波大学野外運動研究室広報係
発行：筑波大学体育系野外運動研究室
〒305-8574 つくば市天王台1-1-1
TEL/FAX 029-853-6339
URL <http://yagai.tsukubauniv.jp/>

【巻頭言】

旅立ちの季節に

向後 佑香



卒業生、修了生の皆さん、本当におめでとうございます。筑波大学を巣立ち、新たな環境へと踏み出そうとしている今、どんな想いを胸に抱えて新天地へと旅立とうとしているのでしょうか。企業でバリバリとや

っている人、野外関係の仕事へ携わる人、本当に様々な分野へと飛び立って行きました。野外研で学んだであろう“出来ない”ではなく“なんとかしてみる”の精神で、新天地での活躍を祈っています。賑やかだった研究室も今は静かで、少し寂しく感じつつ、すでに次のキャンプの準備や春の整備実習、来年度からの研究室運営に向け、あわただしく毎日が過ぎ去って行きます。常に動いている人たち。これが野外研の性なのでしょう。

私も3月末には慣れ親しんだ筑波大学を退職し、4月からは筑波技術大学で教員として赴任することに決まりました。振り返ると野外運動研究室に在籍した10年間、本当に多くの仲間と出会い、たくさんの学びを得ることが出来ました。

私の好きな言葉に、“Where there’s a will, there’s a way”があります。一意志あるところに道あり、意志あるところに道は開ける—という意味です。初めて北アルプスを縦走登山した時に、ふと自分が歩いてきた道を振り返ると、山々の稜線、切り立った岩稜に登山道が続いていました。自分の足でこんなところまで歩いて来られるんだと感激した記憶があります。また、論文作成中もどうしてもわからない事があり、何冊も何冊も書籍を取り寄せ、苦手の英語と数式と格闘しながらも、少しずつ理解できるようになった時、大学教員として野外に携わろうと決めた時、自らが望めば、道はどこまでも続いている事を知りました。道なき道も歩いていればそこが道になるし（個人的にはあまり道なき道を進むタイプではない）、目的の場所へ向かう際にも、私たちは色んなルートを選ぶことができるのです。筑波大学野外運動研究室を巣立ち、ようやくスタートラインに立つことが出来るように思います。志を大切に、これからの人生をしっかりと歩んでいきたいとします。

【2014 年度野外研を旅立つのは 6 人】

○山川 晃(M2)



野外運動研究室に入って早4年の今日、無事修了することができてホッとするとともに、またここから新たなスタートを迎えることに新鮮な期待感を持っています。野外研での生活はととても刺激的であり、多くの考える機会を得られました。春からはつくばから離れて仕事をすることになりましたが、この場所で描いた夢を実現できるよう、日々攻めの姿勢で努力していこうと思います。

○藤田 花子(研究生)



野外運動研究室に入って3年、厳しくも学生のことを考えてくださる先生方のもと、「精進せねば」と思う環境に身を置いて、積極的に発想を拡げていく先輩たちを身近に見ては、感化されていました。そして掛け替えのない、腹心の同期たちに出会えました。思いを馳せるほどに「この上なく充実した日々だったなあ」と、胸がいっぱいになります。多くの学びと出会い、そして感動を、本当にありがとうございました。

桜の季節、「別れ」の時ではありますが、「途切れ」ではない御縁と信じています。そして「出会い」も「巡りあい」も逃さないようにしたい、そう思います。

来年度も、野外研には新しい素敵な出会いがあるのでしょうか。私にとって、振り返る日々が糧になっているように、後輩たちにとっても、そうなる時間が詰まった1年となりますように。ありがとうございました。

○安 柄泰(UG5)



野外活動に魅了され始めてはや3年…この研究室でたくさんの素晴らしい経験をして、自分の人生にも大きな影響を与えてくれた時間だったなといま振り返って思います。特に実習で経験したキャンプと登山は衝撃的で、野外研の魅力に気付くきっかけでした。実現

できるかできないかは置いておくと、キャンプには本当に社会を変えてしまう位の可能性があるんじゃないかと思っています。

また最高の仲間、先輩、先生方に出会えた3年間でもあって、これからも自分の人生の中のどこかに「野外」というキーワードを置いておきたいなと思います。

もっとキャンプや他の活動に関わりたかったという思いは結構ありますが、やっぱり野外研は最高ですね。

○北川 武(UG5)



野外運動研究室の先生方、先輩方、後輩たち、そして同期、在学中様々な活動で大変お世話になりました。ありがとうございました。

野外研での活動を振り返ると、特に、この1年間はキャンプのスタッフやASEのスタッフなど、これまでよりも一層多く野外に関わることができ、改めて野外の素晴らしさ、野外の人と人を繋ぐ素晴らしさを感じました。

来年度からは、人と家を繋ぐお仕事をするわけですが、どんな環境でも楽しめる野外のように、どのような仕事でも楽しんで取り組めたらなと思います。

後輩たちには、引き続き精力的に野外活動に勤しんで頂き、野外研の良さを継承してさらにより良いものにしていってください。※研究室を私物化しないようにね。これからの野外研の益々の発展をお祈りしています。ここで一句。

《野外研 楽しい時間を ありがとう》 たけを

○庄司 翔太郎(UG5)

私は、野外研での経験を通じ、挑戦することや我慢すること、感謝すること、出逢いの大切さなど多くのことを学びました。その中でも私が特に感じたことは、大自然の中にいると自分が自分になれること、物事をシンプルに捉えられること、ささいなことでも幸せを感じられるということでした。



人間生きていくと欲が尽きないしどんどん自分がないものを求めてしまう、だけど私は自然に還ると、生きられることが幸せであり、空腹を満たすこと、綺麗な景色をみることで、小さなことで幸せに満ち溢れることができました。やはり、それは自分が自然の中にいると、人と比べたりせず、社会にある一般的なものさし・価値観で物事を測らず、自分が感じたことを感じたままに受け入れ、表現することができたからだと思います。

大自然からのパワーに加え、同じ空間にいた仲間を信頼できたからこそ、自分が自分になれたのだと感じています。

私は4月から社会人となり、サラリーマンとして、

私利私欲に満ちた息苦しい社会で揉まれて、進化し退化していくと思います。そんなときは、自分を取り戻すためにまた自然に還り、また、心を安らかにし謙虚になるために野外研に、私の心を持つ先生方に会いに帰ってきたいと思っています。そのときは優しく、温かくして頂けると嬉しく思います。私の先生方、野外研でお世話になった皆様、ありがとうございました。

○川崎 渉(UG4)



約2年間お世話になりました。野外研では夏のキャンプ、冬のスキー、ASE、卒論、色んなことを経験させていただき、多くのことを学ばせてもらいました。オプションや勉強会などの研究室の活動にはあまり参加することが出来ませんでした。先生や先輩方にはいつも優しく丁寧

に指導や相談に乗って頂き、本当に感謝しています。野外研で学んだことを活かして4月から立派な社会人になれるよう、また新たなスタートを切りたいと思います。ありがとうございました。

【正課事業報告】

○2014 年度卒業研究・修士論文発表会



〔期日〕2014年1月24日(土)

〔場所〕筑波大学体育芸術学群棟 5C216 講義室

〔発表〕

●卒業研究(4題)

川崎 渉

「A. S. E. がサッカー選手のリーダーシップに及ぼす影響」

北川 武

「A. S. E. 体験が児童の集団凝集性に及ぼす影響」

黒須雄翔

「登山による達成動機の変化と登山時の環境認識と感情との関係」

中村綱希

「キャンプ体験が参加児童の道徳性に与える影響」

●修士論文(1題)

山川 晃

「1960年以降の朝日新聞における スキー場の開発と利用に関する報道の変遷」

1年間の研究の成果を発表する論文生、新しく野外運動研究室に入ってくる新専攻生、先生方、OBOGの諸先輩方、そして研究室に残るメンバーが集い、今年度の締めくくりと、新しい1年への希望を感じ

た1日でした。(佐藤)

○体育センター スノースポーツ

[期日] 2015年2月17日(火)~22日(日)
[場所] 新潟県岩原スキー場
[参加者] 筑波大学学群生および大学院生 73名
[指導者] 坂本昭裕、向後佑香、山川晃(TA)、

大友あかね(TA)、他先生方10名

今年度も体育センターの集中授業である「スノースポーツ」が実施されました。スキー・スノーボードの実技講習に加え、講義やナイター、研究報告会等の盛りだくさんの5日間でした。

実習終了後の受講生の清々しい表情からも、良い実習になったのではないかと感じました。(大友)

【受託事業報告】

○ロアツ熊本アウトドアプログラム

[期日] 2015年1月30日(金)~31日(土)
[場所] 国立阿蘇青少年交流の家
および九州自然歩道周辺
[参加者] ロアツ熊本選手29名
小野剛監督、他コーチ、スタッフ12名
[指導者] 坂本昭裕、向後佑香、佐藤冬果、山川晃、
大友あかね、藤田花子



キャンプ1日目は午前中にアイスブレイキングとASEの導入。午後はソロの準備をし、グループでサイトまで移動。そして一晩、ソロビバークを行いました。朝起きると、うっすら積もる雪。かなり冷えしました。

選手の皆さんには、ビバーク地からひとりで歩き、朝7時までに仏舎利塔に集合するという課題が出ましたが、無事に全員が時間通りゴールしました。交流の家に戻り、ソロのふりかえりの後、午前2時間、午後2時間のASEを行いました。

ソロビバークは、思っていたよりも寝ることができたという選手、寒くてそれどころではなかったという選手…と様々でしたが、携帯などを持たずに山の中で過ごした時間は、様々なことを考えるきっかけにもなったというコメントが多く聞かれました。

(ニュース番組にも取り上げられました！)

https://www.youtube.com/watch?v=bD_oB0yWU1o

(佐藤)

○柏高校ハンドボール部 Outdoor Training Program

[期日] 2015年2月14日(土)
[場所] 筑波大学野外運動実習場「野性の森」
[参加者] 県立柏高校ハンドボール部 34名
[指導者] 向後佑香、佐藤冬果、山川晃、

大友あかね、藤田花子

バレンタインのこの日、冷たい風が吹く野性の森に集まったのは、高校生ハンドボーラー。寒さに負けず、時には半袖半ズボンになり、時には80分間大ウォールで粘り、集中した様子で課題に取り組んでいました。

振り返りでは、「今まで仲間に遠慮して言えなかったことがこれからは言えそう」「一緒に喜べる仲間がいるって素敵なこと」、などの意見を聞くことができました。(大友)

○親子で楽しむ自然体験活動

[期日] 2015年3月1日(日)
[場所・主催] つくば市科学万博記念公園
[協力] ビクトリノックス・ジャパン(株)
[参加者] 幼児~小学校6年生までの
子どもと保護者の方 25名
[指導者] 渡邊仁、佐藤冬果、大友あかね
[つくばスタイル]

http://www.tsukuba-style.jp/blog/2015/03/post_10118.html

卒業生である平山善規さん(NPO法人日本スポーツ振興協会)から依頼を受け、3名でお手伝いをしてきました。

生憎のお天気でしたが、アイスブレイキングゲーム、クラフト、おしるこ作りと、あっという間の3時間でした。ネイチャークラフトでは、公園に落ちている枝を拾ってきてペンダントやストラップ、落ち葉のスタンプをつかってランチョンマットを作りました。

ナイフで削って、やすりで磨いて…。できあがった作品を満足そうに眺めている様子を見て、こちらも嬉しい気持ちになりました。

ナイフや、ガスバーナー等の使い方も含め、野外活動の楽しさを少しでも伝えられていたらいいなあと思います。(大友)



○渡邊研ゼミ合宿 in 赤倉

[期日] 2015年3月8日(日)～9日(月)
[場所] 赤倉観光リゾートスキー場周辺
[参加者] 渡邊仁、藤田花子、大関久仁、吉沢直



1日目はゲレンデスキー、2日目はバックカントリーを行いました。夜には卒業論文の中間報告会として、今までの研究活動を報告しました。卒論への意欲が高まったので筑波に帰っても頑張ろうと思っています。

2日目のバックカントリースキーでは国際自然環境アウトドア専門学校副校長の永井将史さん(H14年度修了)にツアーに同行していただき、より実践的な知識を学ぶことができました。バックカントリー中の安全管理、山の特徴、コースファインディングの方法など多くのことを教えていただき、とても学びの多い1日になりました。(吉沢)

○大学院生スキーツアー



[期日] 2015年2月10日(火)～12日(木)
[場所] 福島県南会津郡針生地区周辺
[参加者] 藤田花子、山川晃、大友あかね、
他研究室より4名

1日目夜に現地入りし、2日目は晴天の下鴨沼へスノーシューハイク、3日目はだいくらスキー場でゲレンデスキーを行った。雪にテンションが上がって、童心に帰って遊びまわり、8人でも優にくつろげる

雪洞を掘りあげる。研究室外からの参加者もあり、ほぼ初スキーに「膝やばい」と連呼するメンバーも、最後には何かを掴んだよう。賑やかな、濃密な時間であった。夏にキャンプをしたところの、冬の景色を見るのはまた新鮮で感慨深いものがある。キャンプってやっぱりいいなあ。(藤田)

○修了生藤田大氏(フランケン)ご来筑

[期日] 2015年3月8日(日)
[場所] 筑波大学野外運動実習場「野性の森」
[集った人々] 藤田ご一家、(当時の指導教官)坂本昭



裕、渡邊親子、向後佑香、佐藤冬果、大友あかね、川崎渉、黒須雄翔

H17年度修了の藤田大さん(ユニクロ勤務)ご家族がご来筑し、先生方、現役の学生を含め、野性の森にてランチパーティーを行いました。元キャンパーとしては、お世話になったカウンセラーとの再会を喜びつつ、世代を越えて人と人をつな

げる野外研の活動に、また魅力を感じた1日でした。(佐藤)

○その他ちょっとしたご報告

◎UG3年吉沢直が、SAJスキーバッチテスト1級に合格しました。

[期日] 2015年2月8日(日)
[場所] 福島県だいくらスキー場



◎MC3年佐藤冬果が、茨城県連でスキーC級検定員に合格しました。

[期日] 2015年2月22日(日)
[場所] 福島県だいくらスキー場



◎H24年度卒業生、福塚賢一くんが、茨城県連でスキー準指導員に合格しました。

[期日] 2015年3月8日(日)
[場所] 山形県米沢スキー場

リレーコラム～OB・OGからのメッセージ～

リレーコラム NO.18
2004 年度修了
株式会社インテリジェンス

栗野友樹さん



2005 年修了の栗野友樹（キャンプネーム：スネ夫）と申します。
修了後は、民間企業で営業職として 3 社経験し、現在は株式会社インテリジェンス（社会人の転職支援でリクルート社に次いで業界 2 位）という会社で、キャリアコンサルタントという仕事をしています。年間に約 400 名の転職希望者と面談をし、1 日 300～500 通のメール対応（毎分 1 通のメール処理をするスピード感！）、勤務地は丸の内（東京駅直結の丸ビルで、外資系金融機関やコンサル会社、Linkedin 社のような企業が多数入居）という、「野外」とは真逆の「大都会・息つく暇もない業務スピード・環境」で働いています。

◆「人が変わる瞬間」に魅せられた野外運動

一見、野外研と関わりがないキャリア・仕事環境に見えますが、野外教育の「自己・他者・自然」でいう『自己・他者の変わる瞬間』に対する興味関心が根底で繋がっています。花山キャンプ、ゆめキャンプ、各種の実習を通じ、自然環境という非日常環境であるからこそ、人が変わる瞬間をより強烈に体感でき、その面白さや意義を強く感じた野外研の数年間。それは自分のキャリア選択に大きく関わってきており、自分の人生の方向性を獲得する転機となる期間になりました。キャリアコンサルタントの仕事は、他者のキャリア選択という「人が変わる瞬間」に関わる仕事と言えます。

◆野外研時代にやっておくと良いこと

さて、自分の反省を踏まえてとなりますが、まだ 10 年と短いながら企業での就業経験を経て、現在の室員の皆さんに大学・大学院時代に下記のようなことをしておくとなかなか感じています。

①野外教育含め学問の世界を目指すなら／とにかく論文をたくさん書くことと思います。多少、稚拙でも形にすることが業績・成長の場となり、野外関係者以外からの評価の対象にもなると思います（野外研の場合は実習等の実践の場が優先されると思いますが）。また上位領域や近接領域（教育学、心理学、経営学、社会学、環境学等）との接点を持てるとより良いかと思います。

②一般企業を目指すなら／とにかく 1 つでも 2 つでも、自分がメイン担当となるキャンプや研修を担当させてもらうように手を挙げると思います。僕自身、以前の「ゆめキャンプ（つくば市内での 6 か月の土曜日キャンプ）」を担当させてもらうことで、失敗も成功も含めて「自分が創意工夫をして取り組んだ」と言えるものを持つことができました。サークル他の活動ではなく、自身が興味関心を持つ分野で、さらに正規の大学組織の中で若手が物事をマネジメントする経験を積める、とても素敵な環境があると思っています。

◆最後に

2014 年秋、野外研 50 周年記念式典に家族 3 人（妻も野外研出身）で参加させていただいた際に、諸先生方、先輩方をはじめ研究室員の皆様の時間や空間を越えた繋がりや研究室への愛情の強さを感じ、改めて素晴らしい場にいさせてもらったのだと感謝の念を強くしています。

自分自身が修了時に大学ではなく民間企業への就職を選んだ理由は、「外から野外研・野外教育の世界に貢献できる自分になる」という考えがありました。直接的ではなくとも OB・OG として何かしら役立つことができればと思っています。

【編集後記】

野外研の院生として過ごす 3 度目の 3 月を迎えてしまいました。先輩を見送り、同期を見送り、ついに院生含め、卒業生が全員後輩になってしまいました。彼らのコメントを見て思い出すのは、彼らが野外研に入ってきた頃のこと。初めは「何でこの子たちは野外研を選んだんだ！大丈夫かコイツら！」と

思われる出来事も多々ありましたが、実習やキャンプ指導を通してグイグイ素敵な野外人になっていく姿がまぶしかったのを思い出します。一緒に山に行ったり、指導をしたり…楽しい時間をありがとう、卒業オメデトウ！

佐藤冬果(M2)